

## 校務DX計画

本町において、校務DXによる学校現場の働き方改革をはじめとしたさらなる教育の情報化を行っていく

**1 現状と課題（令和6年11月）****（1） 学校と保護者間連絡**

学校からのお便り、調査、アンケート、通知、欠席遅刻早退等連絡等については、令和6年度より導入したメール連絡網「さくら連絡網」により省力化が図られている。

**（2） 校内教員の連絡**

校内での資料・情報共有については、校内設置のファイルサーバや校務支援システム「スズキ校務」Google クラスルームのチャット機能等を活用し、打ち合わせ等の時間短縮、省力化が図られている。今後、職員会議や校内研修といった場においても各種ツールを用い紙面削減に寄与する体制は整っている。

**（3） 教員と児童生徒間の連絡**

Google クラスルームを活用した連絡・調査・アンケートや課題の配布、児童生徒からの提出等が浸透しつつある。

**（4） 教員の校務支援**

各種名簿管理、成績処理、出席簿、通知表・指導要録等作成に、クラウド型校務支援システム「スズキ校務」を採用している。クラウド型でもあるので、万が一の場合の在宅業務にも対応している。職員の出勤簿や県費職員の勤務時間管理についても、電子化している。

**（5） 電子黒板、デジタル教科書、実物投影機**

全普通教室、特別支援教室に電子黒板、実物投影機、各教科の指導者用デジタル教科書を整備し、児童生徒の学習効果を上げている。教科によっては、生徒用デジタル教科書を導入し、学習効果を見ている状況である。

**2 今後（令和7年度以降）****（1） F A X ・ 押 印**

F A Xについては、公所との連絡には使用しておらず使用頻度が以前に比するとだいぶ低くなっている状況である。使用廃止を視野にいれていく。

押印については、地教委、県教委とのやり取りには原則不要となっている。今後も引き続き見直しを行い、ペーパーレス化を推進していく。

**（2） 行政系、校務系、学習系ネットワークや端末**

行政系、校務系、学習系の3種のネットワークと3種の端末が導入されている。G I G A第Ⅱ期や、校務系端末の更新にあわせて、適切なネットワークや端末の整備を進めていく必要がある。

**（3） 校務の効率化・質の向上**

生成A Iの導入や、デジタル採点システム、オンライン健康観察等、今後導入を検討すべき校務DXがある。先進校の情報を入れる等して導入の可否を積極的に検討していく。